

原罪

知っておきたいキリスト教のことば (69)

「原罪」という言葉は、聖公会ではあまり使われません。そのため説教で「あなたの原罪は…」と言われても、現在・過去・未来の「現在」のことが頭に浮かぶのではないのでしょうか。

しかしキリスト教において、この言葉は大変重要なものです。みなさんは「アダムとエバ物語」をご存じだと思います。旧約聖書で最初の人とされるアダムとエバは、エデンの園で暮らしていました。神さまは二人に「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまうから」と命じられます。



しかし二人は蛇にそそのかされて、その実を食べてしまうのです。これが人類の犯した最初の罪です。この罪の結果、人間はエデンの園から追放され、神さまと離れてしまうのです。この罪のことを「原罪」と言います。

アダムの子孫であるわたしたちも、その罪を担い、死の支配を受けなければなりません。そしてその人間を救うために、神さまが遣わされたのがイエス様でした。イエス様はわたしたちの罪のための贖いとして、十字架の上で血を流されます。その血によってわたしたち人間は、原罪から救われるのです。これが、キリスト教の信仰です。

聖書では、イエス様の十字架を以下のように説明しています。

「そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。」(ローマの信徒への手紙 5章 18節)

わたしたちはイエス様を信じることによって、罪の鎖から解放され、神さまのみ手のうちに歩める者とされるのです。

次回は「堅信」です。お楽しみに。